

オウム対策住民協議会ニュース

烏山地域オウム
真理教(現アレフ)
対策住民協議会

15年の節目で 松本サリン事件を思い返す

はじめに

3ヶ月ほど前、松本サリン事件の実録ドラマ「妻よ！松本サリン事件犯人と呼ばれて」家族を守り抜いた15年」がテレビ放映され、松本サリン事件の被害者の母親が、初めて現場を訪れ献花したニュースが報じられた。

今年、松本サリン事件から15年の節目の年で、松本では、「松本サリン事件と裁判員制度」と題した講演会や「松本事件検証」と題したシンポジウムが開かれた。講演会では、第一通報者河野義行さん



中部日本新聞 6月28日朝刊より写真掲載

の長男で、当時15歳だった河野仁志さんが松本サリン事件における報道被害と冤罪について話し、シンポジウムには、事件で亡くなられた当時29歳の安元三井(みい)さんと、23歳の小林豊さんの母親をはじめ、約200人が参加した。松本サリン事件と言うと、

河野さんの冤罪被害が強調され、地下鉄サリン事件に隠れがちであったが、節目の年である今年、被害者の母親が参加するなどの変化が見られた。15年という月日は、家族を亡くした悲しみを癒す時間であったようだ。この機会に、「隣にオウムの私たちも、松本サリン事件を思い返したい。」

松本サリン事件

松本サリン事件は、一九九四年6月27日から翌28日にかけて、長野県松本市内の住宅街に、化学兵器として使用される神経ガスのサリンが散布され、7人が死亡、六六〇人が負傷した事件(事件から14年後の二〇〇八

年、河野さんの妻が死亡したためこの事件による死者は8人となった。次々と死んで行く被害者や周辺状況から、毒ガスが使用されたのではないかと、誰がこんな犯行に及んだのかと、事件発生直後は謎だらけの事件だった。使用された毒ガスは、1ヵ月後にはサリンであると判明したが、犯人は捕まらなかった。



西日本新聞 6月27日朝刊より写真掲載

ただ、事件直後から、第一通報者で、「除草剤をつくろう」として農薬の調査に失敗して煙が出た」と救急隊員と話した河野さんに容疑がかけられ、マスコミの報道は過熱した。この状態は1年にも及んだ。翌年、地下鉄サリン事件でつかまった犯人達が、松本サリン事件も自供し、オウム真理教が犯した事件の一つだったことと、目的は、教団道場等の建設計画却下を命じた長野地方裁判所松本支部や、

地元住民の反対運動への腹いせだったことも判明した。

松本サリン事件の被害者

松本サリン事件は、一般市民に対して初めて化学兵器が使用されたテロ事件であると同時に、冤罪事件・報道被害事件でもあった。つまり、事件直後の「不審なトラック」の目撃情報、オウムの犯行を示唆した投書、さらには、農業からはサリンは作れないとの専門家忠告、これらを黙殺するといったずさんな捜査や一方的な取調べで、警察は捜査を間違ひ、マスコミは、偏見を含んだ報道を垂れ流し、無実の河野さんを犯人として扱う結果を招いた。自身もサリンの被害にあい、14年間の植物状態を経た妻を亡くした河野さんの胸中は推して知るべきものがある。

また、事件後15年間、現場を訪れることもできないほどの悲しみに遭った2人の母親も、精神科に通ったり、死ぬことばかりを考えたり、生き地獄の15年間を経て、気持ちの整理ができ、オウムは許さないが、子供が世話になった松本には感謝をしたいとして、シンポジウムに参加した。



松本サリン事件でサリン散布に使用した車

しかし、一方で、15年たった今も、気持ちを整理できない被害者もいるそうだし、
烏山在住の住民として
隣にオウムが住む烏山だからこそ、このような事件が起きないとは言いつけない。私たち自身に容疑がかかったり、子供が殺されたり、自分が傷ついたり、なんでも起こりうると、松本サリン事件は警鐘を鳴らす。だからこそ、協力しあって、烏山を安心・安全な町にしなければならぬ。

動向など、もっと知らせてほしいです。
(これからの活動に思うこと)
・オウム真理教が存在する限りは、安心・安全な生活や地域を守るために活動を続けていかなければならないと思います。
・活動の内容も、皆が納得するような「リサイクルバザー」など、新たなものを取り入れて、無理のない活動であってほしい。
・誰かがやるとか、誰かに任せるとはなく、地域が一緒になって協同体制で活動して行くことが大切でしょう。
最後に、8年間活動に参加して、地域の大勢の人たちと知り合いになって、自分としても得たものが大きいと思っています。忙しくて大変だけれど……。

コラム「声」第3回 協議会活動に参加して8年のM・Kさんへ聞く

自治会会長として、オウム真理教対策住民協議会の活動に参加して8年が経過しました。最初は、監視小屋当番から始まり、署名・募金活動、そして抗議デモと学習会、すべてパーフェクトに行動して来たと思います。監視当番などは、自治会会長という立場上、毎回見張りに立ちました。当時比べて、オウム信者の居住する、GSハイムやサンサンマンションも大家さんが替って、だいぶ整理されきれいになりました。ただし、オウム信者の方は「アレフ」と「ひかりの輪」に分かれてから、2つのマンションを行き来する様子が多くなり、反対に外に出かける信者が多くなつたように思います。私たちには見えない信者の

署名・募金部の活動 夏の募金活動、ガンバリました！

夏休みに入ったばかりの7月20日「わっと、ふれあい健康フェスタ」が、烏山区民センター広場で行われ、オウム真理教対策住民協議会も、焼きそば屋さんで参加しました。少しでも活動資金をとる思いで、焼きそばを作り、販売しました。当日は、今年の夏にしては珍しく、夏の太陽がジリジリと照りつける陽気とあって、売上は今いちでしたが、皆でガンバリました。広場では、大きなプールにニジマスが泳ぎ、親子でつかみ取りが行われていました。歌あり、健康測定ありで、あちらでもこちらでも、歓声が挙がっていました。焼きそばの売り子さんも声を張り上げ「焼きそばいかがですか」「オウム真理教対

策住民協議会がやっています」と、アピールしながら募金のお願いと、焼きそばの販売を皆で頑張りました。これからも皆さまのご協力、よろしくお願ひいたします。



監視小屋だより

オウム真理教への監視活動は、今年で9年目になりました。現在は39の団体（町会・自治会、小・中学校 PTA、青少年地区委員会、商店会）の皆さんの協力を得て、毎日監視小屋に立ち、信者達の動向を日誌に記録しています。皆さんの記入した日誌から読み取れるオウム真理教の動向、情報は協議会活動の大きな力となっています。

<日誌より抜粋>

- ・各部屋は鍵を閉めていない様子で自由に入出入りしているのが不思議だった。（上祐の部屋らしき所は常に鍵を開閉して信者が出入りしていた）
- ・監視されていることに慣れてる様子で、上祐と一緒に車から降りてきた信者に挨拶されとまどった。
- ・今日は（5月5日）ひかりの輪がセミナーを行っているとの事で外からの人の出入りがあった。女の方はピンクの上下の服を着てGSハイムの上と下を行き来していた（5人位）。
- ・白いワゴン車を運転していた女性は、サンサンマンションへ入り、同乗していた男性はGSハイムへ入った。

- ・車の通行も多く一般の方々も生活道路として使われている様子。付近に活気があるのは良いと思うが、反面、危機意識の薄れも感じました。
- ・本日（6月11日）は車が数台出発している。セミナーか何かあるようで皆スーツ・ネクタイ等着していた。サンサンマンションに入った男性がGSハイムから出てきた女性に「みんな行くの？」と聞いていた。
- ・今回で5度目となりました。初めて監視小屋へ来た頃と比べると警備も手薄となり、静かで落ち着いた感があります。
- ・信者の人は巡礼に出ているとほとんどいないそうですので、人の出入りは少ない（6月14日）

日誌からは、春から夏にかけて、セミナーを開いている様子。分裂したはずのアレフとひかりの輪の信者達の交流がある事等が読み取れます。「表向きは静かになっている」「活動の意味は」の感想も多数ありましたが、オウム真理教の起こした数々の事件を、私たちは忘れてはなりません。

住民協議会は地域住民の皆さんと共に、今後も活動を続けていく所存です。ご協力、ご支援をお願いします。

住民協議会活動報告

7月22日(水) 実行委員会
7月24日(金) 夏休み親子映画会で募金活動
7月25日(土) 「千駄山ふれあい祭」で募金活動
7月25日(土) 「新樹苑盆踊り大会」で署名・募金活動
7月28日(火) 住民協議会勉強会
7月30日(木)～8月1日(土)「からすやま夏祭り」で募金活動
8月4日(火) 事務局会議
8月5日(水) 「芦花公園駅前盆踊り大会」で募金活動
8月8日(土)～9日(日)「給田納涼盆踊り大会」で募金活動

8月20日(木) 実行委員会
8月22日(土) 「夏休み夕涼み会」で募金活動
8月22日(土) 「上北沢納涼盆踊り大会」で募金活動
8月28日(金)～29日(土)「りんれい広場お笑い夏まつり」で署名・募金活動
8月29日(土) 「八幡山町会納涼まつり」で募金活動
8月30日(日) 「夏休み親子木工まつり」で募金活動
9月2日(水) 「協議会ニュース第88号」初校正
9月3日(木) 事務局会議
9月7日(月) 「協議会ニュース第88号」再校正
9月14日(月) 「協議会ニュース第88号」発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。